

国際学会に参加して

情報工学府情報科学専攻M2 金高 寛憲

はじめに

平成26年10月28日から30日まで東京都で開催されたChem-Bio Informatics Society Annual Meeting 2014に参加し、ポスターセッションを行いました。

研究概要

私は計算機上で結核の薬剤を設計する研究を行っています。結核は過去の病であるという風潮が存在しますが、現状として毎年170万人の方が亡くなっています。また、既存薬の効かない結核菌も出現しており、新たな薬剤の同定が急務となっております。

創薬には莫大な時間と費用が必要となります。そのため製薬会社を筆頭に、薬剤とその特性に関する情報を効率的に利用する事が薬剤開発を進める上で着目されています。

私は有機合成研究者の知識と経験

を基に行われていた薬剤最適化の手法を計算機上で再現し、結核菌内の標的酵素と薬剤との親和性をシミュレーションで評価する研究を行っており、薬剤最適化コストの大幅な削減に貢献できると考えています。

参加学会について

本学会では、『PPS, ion channel, in silico』が拓く創薬パラダイムをテーマに、様々な情報学分野の研究発表や、講演、企業展示が行われ、私は全日程でポスターセッションに参加しました。初対面の聴講者に自身の研究内容を端的に説明するという体験は、話の要点を相手に分かりやすく話すスキルの向上につながったと感じました。また、研究について第三者の視点から指摘をいただいたことは、自身の研究を関連分野との繋がりという観点で考察する良い機会になったと考えています。

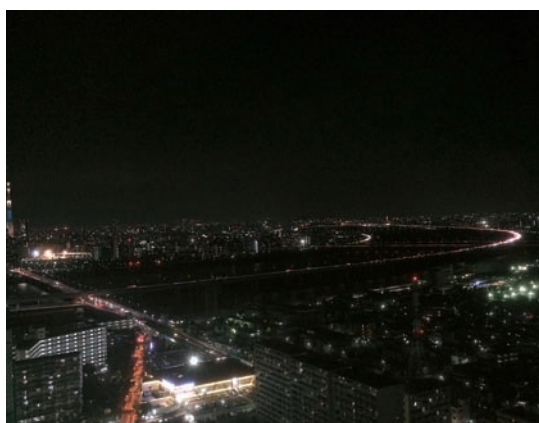
ポスターセッションの間には基

調講演を含め多くの講演を拝聴しました。そこで感じたことは、iPS細胞を用いた医療技術の進歩と英語の重要性です。これまで難しいとされていた腎臓の作製が可能となった事例や、iPS細胞に遺伝子変異を加えることで神経疾患の病態解明が容易となった事例など、この数年間で臨床段階に大きく近づいたことに驚きを隠せませんでした。また、本学会には海外の製薬会社の方や大学関係者が多く参加されており、ポスターセッションの質疑応答や講演のスピーチにおいて、相手の話している内容を十分に聴き取れないことがあり、加えて、相手に英語で正確に回答をする難しさも再認識しました。英語力は社会人となっても様々な場面で必要とされる能力なので、今後の課題として英語の学習に励みたいと思います。

東京について

本学会は都心から少し離れた船堀という場所で行われました。夜になると人数も減り、都心に比べて照明の暗さも感じましたが、学会会場の展望台から見た景色はとても印象的

でした。遠くには都心の高層ビル群が夜空を明るく染めており、多くの車が首都高速上を血液のように流れていました。



東京スカイツリー(左奥)と首都高速道路(右)

謝辞

この度の学会参加にあたり、貴重な奨学金をご支援下さいました明専会に深く感謝申し上げます。